

宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム

公開講義(第 2 回 9/28)のご案内

日頃より宮崎地域の日本語教育に関しましてご関心を賜り感謝申し上げます。

2019年8月よりは「宮崎大学420単位時間日本語教員養成プログラム」(<https://jlttc.vss.miyazaki-u.ac.jp/>)を開講し、16名の受講生の方々が日本語教員を目指して取り組まれております。さて、本プログラムでは、著名な講師をお招きしての特別講義を取り入れております。そこで、特別講義に関しまして「公開講義」として受講生以外のご関心ある方々にもご受講いただく機会といたたく、ご案内申し上げます。

◆公開講義

第二弾 「日本語教育文法」

日時： 9月28日(土) 9:30~15:55

講師： 森山 新先生(お茶の水女子大学大学院 文化創成科学研究科 教授)
(プロフィール、講師からの一言は裏面をご参照ください)

費用： 5,000円(資料代込) 当日ご持参ください

場所： 宮崎大学まちなかキャンパス
宮崎市橋通東3丁目4-36 村武ビル1階(若草通りアーケード内)

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/facilities/related-facility/machinaka-campus.html>

交通： 宮交バス橋通3丁目バス停、駐車場なし

(車でお越しの際は、近隣の有料駐車場等をご利用ください)

◆お申込み

方法： 右のURLよりご入力ください。 <https://forms.gle/XGEKx4MY6iX1NLLA6>

備考： 前回、第1弾お申込みの際に、第2弾、第3弾も併せてお申込みいただきました方は、お申込み不要です。ただし、お申込み内容に変更のある方は、再度、ご登録ください。

当日の時間割

時刻	時間	内容
9:20		開室
9:30	0:45	授業1
10:15	0:10	(休憩)
10:25	0:45	授業2
11:10	0:10	(休憩)
11:20	0:45	授業3
12:05	1:15	昼休み
13:20	0:45	授業4
14:05	0:10	(休憩)
14:15	0:45	授業5
15:00	0:10	(休憩)
15:10	0:45	授業6
15:55		終了
16:00		閉室

会場位置図 若草通を橋通より入り、直ぐ左手



◆次回

第三弾は、下記の講義を公開予定です。よろしければ、この機会に併せてお申し込みください。

第三弾 「日本語教育の現状と歴史」

日時： 10月26日(土) 9:30~15:55

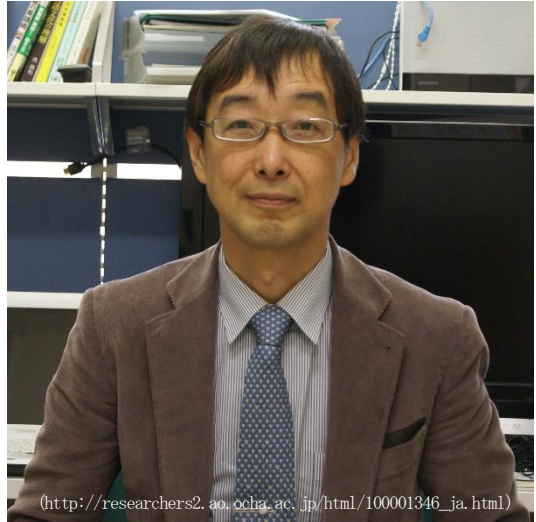
場所： 宮崎総合学院

講師： 平高 史也先生(慶応大学 総合政策学部 教授)

費用： 5,000円(資料代込) 当日ご持参ください

〈講師プロフィール〉

お茶の水女子大学基幹研究院・人文科学系教授、文学博士。韓国の弘益大学、世宗大学などで専任講師を務めた後、2001年よりお茶の水女子大学に赴任。専門は認知言語学的観点からの第二言語としての日本語教育研究のほか、最近では複言語・複文化主義に基づいた間文化的シティズンシップ教育に関心を持ち、言語教育を通じ、日韓を始め、東アジアがともに生きる道を模索、毎年、韓国をはじめとした海外の大学と複言語・複文化教育プログラムやTV会議システムを用いた国際遠隔合同授業、世界の学生を集めて、複言語で様々な国際問題を討論する国際学生フォーラムなどを開催し、国内外の学生を育成している。主な著書として『日本語多義語学習辞典：動詞編』(アルク)『認知と第二言語習得』(韓国・図書出版啓明)、『第二言語としての日本語習得研究の展望：二言語から多言語へ』(ココ出版)、『日本語教師のための応用認知言語学』(凡人社)、『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』(スリーエーネットワーク)などがある。



(詳しくは<http://www.li.ocha.ac.jp/global/mrs/>を参照)

〈講師から一言〉

かつて日本語教育学は日本語学の知見をそのまま学習者に教えることが当たり前に行われてきましたが、近年、様々な問題が指摘され、それらを克服すべく、日本語学や日本語教育学、第二言語習得研究の専門家が力を合わせ「日本語教育文法」を考案しました。一方、海外に目を転じてみると、欧州協議会が考案した「外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)」が、世界から注目を浴び、日本語教育でも「日本語教育スタンダード」の制定の動きがみられています。一見すると日本語教育文法とCEFRとは、第二言語教育に関し、似たような提言をしているように見受けられます。しかし、両者の間には類似点とともに、大きな、かつ重要な違いが存在しています。そしてそれは残念ながら、日本における日本語教育ではややもすると見逃されたり、切り捨てられてしまったりしているのが現状です。それはCEFRの背後に存在する、ヨーロッパ人育成のための壮大なビジョンです。欧州は二度の世界大戦に対する深い反省から、戦後50年かけて欧州連合を作り上げてきました。CEFRの背景には、欧州をして、国家間の対立を克服し、ともに生きるための教育理念として導き出された、「複言語・複文化主義」の考え方があり、これが欧州統合の歩みに大きな貢献をしています。そして、日本語教育のためのレファレンス、スタンダード以上に、そのような、ともに生きるための理念こそが、対立の絶えない今日の日本をはじめとした東アジア、そして日本語教育など、東アジアにおける第二言語教育が、学ばなければならないものであると考えています。今回の講義では、このような日本語教育文法とCEFRの類似点を見た後、CEFRから何よりも学ばなければならない、「ともに生きる」ための考え方を補足的に紹介し、東アジアと世界の共生と平和のために、日本語教育が、そして我々日本語教師が何をしなければならないのか、お話ししようと思っています。